

令和4年第3回大田市教育委員会定例会会議録

日 時：令和4年3月22日午後2時30分～午後3時57分

場 所：大田市役所2階第2会議室

出席委員：教育長 武田 祐子

委 員 梶 伸光、竹下ちとせ、仲野義文、福間信隆、木村貴子

欠席委員：なし

傍 聴 者：0名

事務局出席者：

森教育部長 勝部総務課長 坂井学校教育課長 後藤社会教育課長

縄石見銀山課長 田村給食センター長 湊人権推進課長

西上総務課長補佐（会議録作成者）

1. 開 会 （司会・進行 森部長）

森 部長 ただいまから令和4年第3回大田市教育委員会定例会を開催します。

2. 会議録の承認について

森 部長 第2回会議録の承認について、会議録の訂正等ございましたらお願いいたします。ございませんか。

仲野委員 [2件訂正]

梶 委員 [3件訂正]

竹下委員 [2件訂正]

森 部長 4, 5, 6 ページについて追加、訂正します。

3. 経過報告

森 部長 次に、教育長報告に移りたいと思います。教育長お願いします。

教 育 長 （資料にて説明）

令和4年3月教育長報告						
月	火	水	木	金	土 日	
	1 魅力化MTG	2 答弁協議	3 本会議：一般質問(議場)	4 本会議：一般質問(議場)	5	6 まちづくり研修会(JA石見銀山本所)
	答弁協議	三役ランチミーティング(市長室)		社会教育係協議		弁当の日
				人事関係協議		
				給食公会計協議		
7	8 会議・打合せ：総括 質疑・委員会付託(議場)～ 全会協議会(全協室)	9 ※他中卒業式	10 北三瓶中卒業式 出席	11 終日外出：飯南町教委	12 終日外出：教育フェスタ	13 おおだまらセン祭り
	※二中卒業式	大田三中卒業式 出席 事務局会	学力育成担当者会			
14	15 琴ヶ浜計画策定委員会 常任委員会終了後・社会教育推進センター庁内検討会 第10回教育魅力化MTG	16	17 総合教育会議	18 ※大田小卒業式	19	20
	三瓶交流の家 来庁		【中止】市長表敬訪問(一子アニス部)	講会閉会・本会議(議場)～ 終了後：全員協議会(全協)		
	大田高校オンライン発表					
	臨時校長会(内示)					
	銀山TV 教育月間検討会					
21	22 三者会(仮)	23 終日人事関係	24 終日人事関係	25 政策企画会議	26	27 東京出張
春分の日	定例教育委員会			ペーパーレス会議研修		
	馬路地域おこし隊			退職及び辞職評令交付式 (感謝状贈呈)市民C研修室		
				第5回大田市文化財保存活用地域計画策定委員会		
28	29 東京出張	30 文化財保護審議会 来客：東京市人会	31			

森 部長
福間委員

教育長報告でした。よろしいでしょうか。

卒業式に参加した時の感想をいいですか。久手小学校では対面式の卒業式を始めて拝見させてもらいました。ただ、共感する場が無いなと思いました。今まで部活動でも学校生活の中で一生懸命共にやって来た卒業生と在校生が対面する場があって、送辞とか答辞を聞いて涙を流すような姿がないなど、寂しかったのはそういう過程から折角のこう自分達が一生懸命やって来た6年間で卒業して行く子ども達は、どう感じたのか、或いは送って行く子供達はどうかだったかなと感じました。後は、昔のスタイルに戻ったのかなという感じで、代表が一括貰ってそれで卒業証書授与は終り、国家・校歌もない、ここ何年間で国歌も校歌も歌わない卒業式で子ども達が卒業して行くのだと感じました。

木村委員

志学中学校では、国歌と校歌を在校生も歌っていました。卒業生5人、在校生6人小規模校ならではの式で、在校生代表が贈る言葉を読んでその後、他の在校生一人一人が卒業生一人に、こんなことが有りましたとか、思い出とか、頑張ってくださいとあり、それが終わって3年生一人一人が3年間の思い出とか読んだのですが、最後の子が「私達5人は保育園の時からずっと一緒でしたと、志学は保育園も同じ校舎なので。4月から5人が同じ教室に揃わないと思うと不安でいっぱいです」と言った時に、誰も普通に聞いているのに私一人ウルウルして、ここは泣くところじゃないのかと思いつつながら聞いていたのですが、小規模校ならではの素晴らしい式でした。良かったです。

竹下委員

総合教育会議の時にも述べましたが、大田西中では、校歌など全てがテープだったことに驚きました。その中でも、生徒や先生方が協力して良い最後の卒業式にしようと取組まれ頑張っておられました。式に参加させていただいたことは、大変良かったと思っています。来年は沢山の方が来賓として来ていただけるようになればいいと思いました。

教育長

三中と北三瓶中学校へ行かせていただきました。木村委員さんがお話されたようにどちらも小規模校だったので卒業生が一人一人思い出と、これからの夢を個別に発表したり、待っている控室の所で子ども達のこれまでの学校生活が映像で流れていたりしました。それから北三瓶は農家の皆さんを呼ばれておられて、一緒に保護者席に並んでくださったり、初めてだという事でしたが、小学校の高学年も同席させていらっしゃいました。校長先生の祝辞の間に北三瓶は地域とのふれあいという部分で映像を流され、マスクを

取っていた時の合唱の映像をおり込まれて、それぞれの温かい雰囲気工夫して行われた式でした。

仲野委員

二中と大田小学校へ行かせていただいて二中については総合教育会議で話しましたが、最初は可哀そうだなと思っていました。それは普通の卒業式を知っているので、それが出来ないのが可哀そうだなと思ったのですけれども、ただ先生達は、そういう気持ちを思わせないように色々な工夫をされているのです。

それを見たり聞いた時に、逆に幸せだったのではないかと、これだけ多くの人達が子ども達の卒業式に対して真剣に考えておられるという事が、通常であつたらあつたかなという事で、そういう意味では、良い卒業式だったなと思いました。小学校も同じことで在校生がいなくて校長先生が最初と終わりだけ卒業証書を読まれたけれど後は手渡しで、その際子ども達は、横に置いてあるマイクで自分は中学校へ行ったらこういう事を頑張りますとか発言していて、それはそれで凄く温かいなと思いました。そういう意味では、コロナという制約があつてその中で子どもは子ども、保護者は保護者、学校は学校で精一杯の事をやっておられるなという事で本当にいい卒業式だったなと思いました。

森 部長
委 員

ありがとうございます。教育長報告はよろしいでしょうか。
(はい)

4. 議第

森 部長

議第18号～21号まで1つの改正ですので総務課長が一括で説明させて頂き、その後で質疑を受けたいと思います。総務課長お願いします。

勝部課長

(資料により説明)

森 部長

よろしいでしょうか。

委 員

(はい)

森 部長

議第22号「子どもの体力推進事業について」
社会教育課長が説明します。

後藤課長

(資料により説明)

福間委員

大田市の子どもの体力向上に向けての連絡会議は出来上がって9年目になる。ここに書いてあるように基本方針とか目標とかという形で作り上げられたという記憶があります。基本方針が自らスポーツに取り組み、生涯にわたって運動に親しむ資質を身に着ける、目標は体力向上と学校体育技術の取組の推進や遊びやスポー

ツに親しむ子供を育てるが目標になっていて、それを作り上げたのが大田市全体で一斉に体力テストを実施してデータを基にして、それから課題を見つけて次に進んで行くという事になっていた。10年経っても実施、取組が変わらない。シャトルランとビートランニングをやっているのだが、10年経って実情はどうか、それに対して目標はどうか、方針に近づいているのか、近づいていないのか評価が見えてこない。ここが問題なのでは、結果を見ながら子ども達の変化して行く姿がこうであるから次進めて行きましょうというのが妥当なやり方ではないか。スポーツ審議会の際にも実際に出来ていないことも指摘されたし、ワークショップの所に色々な課題が出て来ている。予算付けをして実施している取組なので成果と結果を見て、次どういうふうにして取組んで行かなければいけないか、そういう事に対して、予算を調節して広げて行く必要があると思います。学校はどのような状況であるかきちんとした物が出ているのに、それを扱っていないというのが見えます。

課題はいっぱい見えている。もう一度一から元に戻してどうゆうふうこれから取組んで行くのかという方向性変えて行く必要があると感じました。

森 部長 ありがとうございます。新年度に入りまして評価、検討してどのように進めるのか決めたいと思います。

竹下委員 学校スポーツテストの結果が出ているのですから、委員さんが言われるように、追跡して成績はこういったふうに評価するんだというふうに活かしていかないといけないと思いました。もし出来ていないのであれば、そこを是正しないといけないと思います。最近、私たちの生活の中には、色々な身体の計測機があって、時計の様な物でデジタル計測して記憶されていて、その経過が分かるものがあります。子どもたちへ結果をフィードバックすることが出来れば、自分の体力が上がったとか、ここは良くて、ここはダメだから、ここをやってみようとか考えることができると思います。そういった活用は出来ないでしょうか。

福間委員 個人的には、あなたの体力はこうですよとデータが出ているものが配られています。そこまで予算付けしてあります。予算付けしてやろうとしている取組が段々衰退していくのではなく、そこに見直しをかけて新しい方向性を見つけて行く事が必要と思っている。

木村委員 出た結果を貰って見るだけ、どうして良いか親としても自分がスポーツをバンバンやる訳でなく、どうしてあげたら良いのか、例え

ぼうちの子など6年生で握力が9でペットボトルが開けられません。こんなにとビックリするくらいです。学力も一緒にスポーツも出来るか出来ないかで子どもも振分けられている。みんなが平均的に色々な事が出来るのではなく、出来る子、出来ない子、早い子、遅い子、そんな振分けになっているのではと感じています。

福間委員 中学校に上がっている子ども達を見るとやはり経験不足がよくわかります。走る事ひとつを取っても、これは小学校の時、運動やっていない、走っていないなどすぐわかります。運動会の時、中学生の走りを見ているとよく分かります。コロナの中で運動出来ないという現実はあるのですが「自ら学ぶ、自らやる」という事は、押し付けられたのではなく自分が体を作って行く、環境を作ってやらないと子どもは絶対動かない。

森 部長 参考にしながら、来年度しっかり議論して行きたいと思います。よろしいでしょうか。

委 員 (はい)

森 部長 議第23号「社会教育コーディネーターの任用について」
社会教育課長お願いします。

後藤課長 (資料により説明)

竹下委員 本庁に配属されている方達は、どういう働き方をされるのですか。
後藤課長 本庁の2人については、今年度、社会教育主事の資格を取りに行かれる方又採用されて2年目の方です。本庁勤務のところで県からの派遣主事さんにお越しいただくという事で、これまでの経験とか社会教育としての必要な知識を習得していただきたいというので若い職員2名の配置を考えております。

森 部長 他にございませんか。

委 員 (はい)

森 部長 議第24号「大田市文化財保護審議会委員の委嘱について」
石見銀山課長お願いします。

縄 課長 (資料により説明)

森 部長 質問ございませんか。よろしいでしょうか。

委 員 (はい)

5. その他

森 部長 報告事項、①「大田市小中学校結核対策検討委員会設置要綱の一部改正について」

②「大田市学校教育振興審議会設置要綱の廃止について」

勝部課長
森 部長
委 員

(資料により説明)
よろしいでしょうか。
(はい)

森 部長
坂井課長
仲野委員

次に③「令和3年度島根学力調査における大田市の結果について」
(資料により説明)

中学生は厳しいですね。英語の所の学習活動でノートをキチンと取っているというのは黒丸となっている。いったい授業をどんな感じで受けているのか。見て見たい。

木村委員

人数の多い学校に関しては、やっている子やっていない子、先生の言っている事を全然聞いていないという子が授業参観でもいます。小規模校から行った子は、小さい小学校からだと授業を聞かないと覚えられないし、必ず考えて発言しないといけない環境で6年間育って来て大きいところの子は、ノートを取らなくていいの、授業聞かなくていいのとかそっちの方へ流される子と、それじゃダメだよねと頑張る子で差が出ている。

福間委員

学校の放課後の部活動は、今3年生から2年生へスイッチしている時期ですが、子ども見ていてそれを感じました。生徒の態度とか様子を見ると、これが本当だろうという感じがします。一中の変化は部活動へ行った時、子どもの部活動している様子が今までとは違うなと肌で感じた、迫力を感じない。これは私の個人的な感想かもしれませんが。

教育長
仲野委員

教えを乞いたいという様な気概が無いということでしょうか。小学校の卒業式で「中学校へ行ったら勉強頑張ります。」という言葉はどこに行ったのか。やる気の無くなる原因は何なのか。

木村委員
福間委員

思春期、反抗期もあると思います。
コロナの影響かもしれません。自分の目標とするところが見えなくなって来ているのでは。子どもは部活だけでなく色んな事が制限されて来ている為に自分を生かす場所というのを見失っているかもしれない。

教育長

以前、お話した内容です。小さい学校の生徒が、大きな集団に入っていく経験が必要なのではないかということで、一中の体育祭の準備の見学に行ったそうです。その際に生徒たちがビックリした事は、怠ける人が多いことだったそうです。小さい学校では掃除にしても準備にしても、怠けることは絶対ゆるされないということでした。

- 竹下委員 データを見ると英語は、中一の段階ではやっているのに、中二になったらいきなり落ちるといふ数値になっている。学年差もあるのか。
- 木村委員 内容は中一の時は私達でも覚えているレベル、中二、中三となつて来ると、もういいやというような、単語もたくさん覚えなないといけなないし文法も難しくなってくるので、諦め、脱落する子が出て来て、そこが頑張れなかつた人もいます。
- 仲野委員 地方で東大を目指すといふのは、高校で1人2人、都会の進学校だと何十人も目指しているといふのがあります。集団で学ぶといふ事の大切さといふか、改めて学習集団のあり方といふのが本当に重要だなど、大田市がどうなっているか1人、2人でなく集団として高い理想を目指して行く様な形にならないと、その中の1人だけが頑張ってなかなか難しいと正直思います。
- 梶 委員 学習能力を上げるのは意欲の問題だと思います。今、伺つたように並大抵の事でない。私は小学校にいる時に、自主学习ノートといふのをやっていました。ほめてほめてコメントを書いてあげると、興味を示した子は毎日10ページ20ページと問題集をやつて来ました。それぞれの能力に応じたように学力が上がつて来た事があります。先生との対応で少しずつ、やる気を持たせてあげることが良いと思ひました。坂井課長そういうことをどこかで言つておられませんでしたか。
- 坂井課長 ほめる事は大切な事だと思います。そんなこと出来て当たり前でしようと思つた時点でやる気が削がれたり、これも出来ないのかなといふ素振りが子どもたちに伝わつた瞬間、もう聞いてくれなくなるといふことを聞いています。肝心な事は子ども1人1人の状況を踏まえて、ほめてやつたりつまずいた時は手を差し伸べたり、特に小学校の段階は必要だと感じています。低学年は、なおさら中学校へ行くといふ自主性を重んじるのでそういった所も伸ばしながら、といふふうな学習指導になろうかと思ひます。そこを最初から手を放してしまうと、どうして良いか判らなくなる。そういった状況の見極めが大切になって来ると感じています。学校の中で教える・教わるといふような関係性を持つ事もなかなか難しい位に忙しかつたり、あるいは、中学校では教科担当の複数の方が居られなかつたり、学校の中でOJTの形を取りにくい事も最近段々出て来ているように思ひます。そういった所で先生方は苦勞されています。それが課題として挙がつて来るなど感じています。
- 福間委員 教科を教え合うことが、無くなつて来ている。市教研は如何なつて

いるのか。研究単位の集まりが無くなって来ているのでは、そこじゃないですか。教員の情報交換する場所が無くなって来ている。我々の時は、体育は体育で塊があって、授業公開してお互いに授業の内容について検討し合う機会が結構あった。それが最近無くなって来ているかなという気がしている、お互いの指導技術、ノウハウというのがなかなか受け取れない、心の悩みも聞いて貰えるような人がいないとか、そういう所から来ているのでは、逆に悩んで病んで行く人もおられる。

木村委員 子ども達の目標が無い、やりたいものが無い、行かないといけないから学校へ行って、やらないといけないから宿題をやって、必要最小限の事をやっておけば、何処かの高校へ入れる。大田高の理数科へ行くんだとか、先を見据えて自分はこの職業になりたいからそうなるためどうしたらいいのかを、調べたりとかしない。目標を持って頑張っておけば、殆どの事が出来る。これだけしか勉強していなかったら、これだけの職業にしか付けられないわけで学力が付いていけば選べる職業が増えてくると思います。

梶 委員 斎藤先生というのは、問題解決的な学習を進めて行かれるような指導をされるのですか。

坂井課長 学習指導要領の執筆に係っておられる方で、各教科の大切な部分を深く的確に指導されます。学習指導要領、教科指導の大切な所を非常に的確にご指導されます。授業を見るだけでなく指導案を作るところに係ってくださり、授業についてコメントしていただいています。前と、その時と、その後というふうに指導されます。

竹下委員 研修を継続して行いとありますが、どれ位のスパンでどんな風に、計画されていますか。

坂井課長 ICTに係る事につきましては、学期に1回状況を見極めながら設定して行きます。斎藤先生については、現在計画中ですが6回/年、各中学校区で1回を計画しております。

竹下委員 是非とも中学2年の生徒を対象として行っていただきたい。

教育長 県の学力向上プロジェクトは、ここ数年大田市の学力が低迷しているのを、何か起爆剤になるようにと、県内の幾つかの市町を対象に県が行う実証授業を来年度から受けることにしました。一つは授業力を高める、もう一つは本物に触れる体験を両輪にして、大田市は、市の校長会と共に実施したいと考えています。指導をお願いする斎藤先生は、学習指導要領、学力調査の問題にも関わられた方で、横浜の学力向上アンバサダーや高知県で3年間、指導主事を中心に指導されて、島根県と最下位争いをしていた高知県を3年間で

10位近く順位を上げた先生です。斎藤先生は、教科領域というよりも指導案を作るところから、模擬授業をしてその後、本授業して振り返るという一連を通して指導してくださる方です。この先生に付いていただいて、みんなで同じ理論に立って研究授業を見て、同じ土俵で意見を言わないと所感(感想)になってしまいます。授業分析の力を含めて授業力をアップしたい。また、大田市にはいろいろな教育施設(資料館、サヒメル、交流の家など)があるので、それを活用して大学や高専等々と連携しながら、子どもたちが本物に触れる体験を増やす。これら2つを両輪として、大田市で市内外に提案して行こうと思っています。3年間の実証授業です。ある学年を固定して3年間でどれだけ、この方法論で学力をアップ出来たかを実証する訳です。3年間継続でこの成果がみられるというので大田小の4年生と一中の1年生で考えています。今日も高校の校長先生方と学力の話をさせて頂いたのですが、結局は、小さい学校の数人相手の授業づくりではなくて、先生達は、20人とか30人でも堂々と授業が出来て行くようにするためには、その学校の先生だけでなく市内で様々な教員が大田小・一中の子どもたちを対象に授業してみる。みんなで指導案を作って検討し、模擬授業して、その学年、学級で授業してみるサイクルをつくりたい。将来的に、それが自主的なサイクルになって行くようなシステムをここで構築しないと、学力向上を単に学級とか学校に任せているような状況では成果は上がり、やはり教育委員会がリーダーシップを取って、これだけは市として絶対やろうというものがないと根本的な解決にならないと思って、プロジェクトをいただきました。年間170万円いただけるので、そういう意味でも3年間予算を使わせて貰いながらシステムづくりをと思っております。凄く良い取り組みです。指導技術を学ぶ事が今の先生には無い気がします。体育は経年比較が大事ということだったんです。1年上がって体力がどう変わったのか。こんな取組をしたらこんな変化が起きた。そこの変化を見てほしかったのだが、それについて次どうするのかを考えてほしい。それがなかなか出来ていない。

福間委員

竹下委員

教育長

是非とも、その取組については、来年の教育月間において、重点的にやられたら地域や私達に分かるような形にして欲しいと思います。そうすれば、学校が変わったと認識してもらえenと思います。前回の総合会議が終わった後に、西中のGIGAの取組を委員会の皆さんが「こんな取組があったのか、教育月間で配信してほしい」と話されました。終わってから銀山テレビの方が来られて、今日の

提案を自分達もやりたいと言っていたら、ぜひ提案してくださいと言われました。今後、色々やっている事、考えている事を発信して行かないと、様々な課題を教育委員会だけでなく、みんなで総力を挙げてやらないといけないと思っています。今の子どもたちの現実から見たら、すごい勢いでモチベーションや体力が下がっているの、それを緩やかに、あるいは、もち直すためにも大人の総力が必要だと思っています。悩んでいる事も発信しないといけないと思っています。良い提案でしたので、具体的に考えさせていただきます。

森 部長 次に④「自動車運転免許高齢者講習施設整備事業について」
後藤課長 (資料により説明)
森 部長 ご質問等ありませんか。よろしいでしょうか。
委 員 (はい)
梶 委員 主管とか運営はどうなりますか。
森 部長 県の公安委員会が運営をやります。施設管理については公安委員会はやりません。市が場所を提供するのでやってくださいという事です。

次に⑤「3月大田市議会定例会における一般質問について」
(資料により説明)

森 部長 ご質問等ありませんか。よろしいでしょうか。
委 員 (はい)

6. 閉 会

森 部長 本日予定しておりました議題及び報告事項は以上でございます。
それでは第3回の大田市教育委員会、定例教育委員会を終了させていただきます。次回は4月28日木曜日午後2時からです。

以上の会議録は、第3回の会議録として承認した。

令和4年6月30日

教育長 武田 祐子

委員 梶 伸光

委員 竹下 ちえ

委員 仲野 義文

委員 福間 信隆

委員 木村 貴子